

---

# とある波紋の幽波紋使い

ミヤー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある波紋の幽波紋使い

### 【Nコード】

N7485T

### 【作者名】

ミヤー

### 【あらすじ】

超能力でも魔術でもない能力『波紋』と『幽波紋』をもった少年が学園都市の事件に関わっていく!!

## 第一話：コーラ瓶

科学に支配されている、学園都市。

そのとある路地裏で数人のスキルアウト達が集まっていた。

「おいおい、さっさと退いてくれよ」

右手にコーラ瓶をビニール袋いっぱいに掲げた金髪の少年が、数人のスキルアウトに言った。

「だったら、早く金出せ」

このスキルアウト達のリーダーだろうか。男が少年にカツアゲをしようとしていた。

「いやに決まってるだろうがバカ」

「じゃあ……しょうがねえな、無理矢理にでも貰おうか!!」

その声を合図にスキルアウトたちは、一斉に少年へ襲いかかった。

「……しょうがねえな」

少年はおもむろにビニール袋に入ったコーラ瓶を取り出して一番近

いスキルアウトに蓋を向けた。

「それがどうしたあ……ガッ」

コーラ瓶の蓋がいきなり吹っ飛んでスキルアウトの顎にヒットした。

「こいつ、能力者か!?!」

リーダーの男が一瞬驚くがニヤリと笑い

「だが、俺はレベル3の大気制御だ」

少年に向けて能力を発動した。

しかし、

「なっ!!」

少年は男の目の前に『一瞬』で現れた。

目の前に来た瞬間、男以外のスキルアウト達はまるで糸が切れた見たいに倒れ、男自身も少年の拳で同じ末路を辿った。

~~~~~

「ジャッチメントですの……ってまた貴方ですの」

風紀委員の少女『白井黒子』が喧嘩が終了した後すぐに来た。

「よう、黒子か」

金髪の少年はスキルアウト達を壁にもたれさせていた。

「また、喧嘩をしたのですか」

「喧嘩じゃないさ」

全員を壁にもたれさせ終わった少年はまたコーラ瓶の入ったビニール袋を持って黒子の横を通り過ぎようとした。

「待つんですの」

「やだに決まってるだろうがバカ」

少年はスキルアウトに言った言葉を風紀委員にも吐き、走りだした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7485t/>

---

とある波紋の幽波紋使い

2011年10月8日23時29分発行